



2014年4月1日  
株式会社スカパーJSATホールディングス  
スカパーJSAT株式会社

### 2014年度 社長訓示（要旨）

株式会社スカパーJSATホールディングス 代表取締役社長及びスカパーJSAT株式会社 代表取締役 執行役員社長 高田真治は、新年度にあたり、以下のとおり社内に訓示をいたしましたのでその要旨をお知らせします。

#### 【社長訓示】

本年度は、1996年のサービス開始以来のMPEG2放送を来月（5月）一杯で終了することにより、放送トラポン収入が大幅に減少します。しかしその一方で、H.264への移行費用負担がなくなり、放送センターの運用コストも減少するという「収益とコスト構造が大きく変化する年」です。中期経営計画（2011～2015年度）目標の達成を確実にするとともに、さらに2020年へ向けた新たな成長戦略のベースを作り上げていく1年です。

宇宙・衛星事業部門においては、引き続き防災やBCP利用の法人向け営業を強化し、さらに需要が増す航空機や船舶向けサービスの受注を拡大するとともに、アジア新興国を中心にグローバルビジネスを拡大してトラポン収益減をリカバーしていくこと。さらに、次期中期経営計画で確実な成長を描くことのできる海外での共同プロジェクトや次世代衛星ビジネスなどによる基盤づくりを進めていく必要があります。現在5機の衛星調達作業に入っていますが、いずれも将来の事業拡大・成長戦略にとって重要な役割を担っており、打ち上げ成功と運用開始へ向けて万全を期しましょう。

有料多チャンネル事業部門は、従来型のマーケティングでは通用しないことをしかと認識し、プレミアムサービスでH.264移行が完了するのを契機に、新たな成長軌道への「再スタートの年」にしたい。6月に新顧客管理システムが稼動し、飛躍的にお客様とのコミュニケーション向上が図れ、また、衛星多チャンネル放送で初めて行う視聴動向調査データを活用し、よりお客様の気持ちに伝えることができるマーケティングを実践しなければならない。

本年は放送業界全体で新たなビジネスモデル確立へ向けた動きが加速しますが、当社においてもネットサービスを“本業”として取り組みます。また、6月には当社衛星を使ってNexTVフォーラムの4K放送が始まります。現在行われているロードマップのフォローアップ会合において、2020年東京オリンピック・パラリンピック以降の長期的な高度化への青図が描かれます。国内初のデジタル放送を開始した当社としては、放送技術イノベーションの一翼を担いながら加入基盤の拡大とサービス向上を図っていかなければなりません。

放送コンテンツ海外展開においても、インドネシアで開局した「WAKUWAKU JAPAN」をさらにアジア各国での展開を加速してわが国の国際競争力に貢献するとともに早期に事業性を確立すべく国内外におけるアライアンスを推進していきます。

危機感をしっかりと共有し将来の方向性の確認をしながら日々の仕事を見直すようにして欲しいと思っています。力を合わせれば明るい未来に繋がることを信じてしっかりと進んでいきましょう。

以上